２０１３年度
例会作品検討のための
作品資料集

無名塾　　全７団体の統一例会

市民劇場は、みんなで決めた例会を、みんなで運営する会員制の演劇鑑賞団体です。みんなの総意で感動を分かち合える例会を創りましょう。

長野県演劇鑑賞団体連絡会議

長野市民劇場
上田市民劇場
まつもと市民劇場
すわ湖市民劇場
伊那市民劇場
いいだ市民劇場
北アルプス市民劇場

要保管

2012年８月頃まで、１年間くり返し使います。新しいものが発行されるまでは、保管してください。

例会企画づくりは皆の手で！　サークルで討議しましょう！

これまでの討議の積み重ねにより、下表Aの部分は「例会実現中」、Bの部分が「例会として決定」しました。
サークルで話し合い、B部の例会のうち、運営担当として、どの例会を希望するかを決めましょう。

A　　B

年度	2011						2012					
例会月	5	6/7	9	11/12	1	3	5/6	7	9	11/12	1	3
長野・上田 まつもと・伊那	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
すわ湖・いいだ 北アルプス		○	○	○	3月		○		○	○		○
	東京原子核クラブ	怪談　牡丹燈籠	アプローズ	殿様と私	あゝ東京行進曲	静かな落日	ホブソンの婿選び	ネズミの涙	親の顔が見たい	てけれっつのぱ	宴会泥棒	蟹工船

これらの作品が本年度の例会として実現中。年に一度の運営サークルに参加して、皆の力で例会を成功させましょう！

例　会　実　現　中　！　！

例会レパートリー決定！！

◆昨年度の討議資料で候補作品になっていた中から、県全体の討議を経て、ご覧の作品が例会として決定しました。

◆これらの例会の中から、運営担当を希望する例会を、サークルで話し合って決定し、事務局へ提出しましょう！

※団体により年間の例会本数が異なります。
※作品の詳細は4P～9Pをご覧ください。

長野県演鑑連　企画決定までの基本サイクル

（各団体によって、多少の違いはあります）

例会候補作品の集約（4月）
→ 企画討議資料の作成（8月）
→ 企画討議資料を会員に配布
→ C＆D企画作り説明会
→ サークルでの討議・取り組み
→ 各地の討議結果を持ち寄る
→ 県企画会議にて決定！

企画づくりはサークルの話し合いから！

Cの部分を中心にDも臨みながら、どんな例会が良いか、サークルで討議をしましょう。
１０月頃には、各地で「企画づくり説明会」が行なわれます。皆で積極的に参加し、討議を深めましょう。

C　D

年度	2013						2014 以降					
例会月	5/ 6	7	9	11/ 12	1	3	5/6	7	9	11/12	1	3
長野･上田 まつもと･伊那	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
すわ湖･いいだ 北アルプス	○		○	○		○	○		○	○		○

1．　佐賀のがばいばあちゃん
2．　彦六大いに笑う
3．　モリー先生との火曜日
4．　出番を待ちながら
5．　化粧
6．　楽園
7．　島
8．　黄昏（たそがれ）
9．　夢千代日記
10．フレディ
11．ハムレット
12．桜の森の満開の下
13．「はい、奥田製作所。」
14．樫の木坂四姉妹
15．わが町
16．月のしずく
17．銀の滴　降る降る　まわりに
18．くにこ
19．ロッカビーの女たち
20．海霧

●芝浜
●OH! マイママ
●みすゞ凛々
●銀のしずく降る夜
●カシオペアの丘で
●太陽の塔
●チンチン電車と女学生
●中西和久のエノケン
●山椒大夫考
●をぐり考
●ピアノのはなし
●ハナシがちがう！
●ハンナのかばん
●兄おとうと
●夏の夜の夢
●セメタリー倶楽部
●映画に出たい！
●コレット･コラージュ
●ヘレン･ケラーとサリヴァン先生
●紙屋悦子の青春
●隣で浮気
●博士の愛した数式
●ブンナよ、木からおりてこい
●或る「小倉日記」伝
●三人吉三巴白浪
●木槿の咲く庭
●怪盗先生、教壇に立つ
●祈り
●風と共に来たる
●夏きたりなば
●青空…！
●ダモイ
●かもめ来るころ
●東おんなに京おんな
●百枚めの写真
●賭けること
●カタクリの花の咲く頃
●センポ･スギハァラ
●流星ワゴン
●森は生きている
●ふたりのイーダ
●家族の写真
●HONK!（ホンク！）
●マウストラップ
●名探偵ポワロブラックコーヒー
●うかうか三十、ちょろちょろ四十
●見上げてごらん夜の星を
●千羽鶴
●真砂女
●百合の季節
●母さん
●おもいでぽろぽろ

例　会　候　補　討　議　対　象　作　品　群

サークルで話し合い、要望を持ち寄りましょう！
作品の詳細は１０Ｐ～３１Ｐをご覧ください。

5・6月例会

決定!! 2012年

長　野　上　田　まつもと　すわ湖　伊　那　いいだ　北アルプス

ホブソンの婿選び

無名塾

舞台はイギリスの片田舎。靴屋を営むホブソン（仲代）は、豪放磊落で話し上手な反面、頑固者で寂しがりや。妻に先立たれてのやもめ暮らしで、三人の娘を抱えている。仕事を放っては酒場に入りびたりで、長女のマギーが、そんな父親の面倒をみながら、店を取り仕切っている。ある上流階級夫人の一言で、マギーはある決断をすることになる。それは三姉妹が幸せになるための反乱である。そのための荒療治がホブソン家に施される日がついにやって来るのである。

作　◆ハロルド・ブリッグハウス
訳　◆丹野　郁弓
演出◆丹野　郁弓

出演◆
・仲代　達矢
・渡辺　梓
他　無名塾

□撮影：鶴田　孝介

【劇団紹介】「若き者　名も無き者　ただひたすら駆けのぼる　ここに青春ありき　人呼んで　無名坂」1975年春、仲代家の庭に建つ稽古場に若者達が集まりレッスンが始まる。自発的なスタートであった。しばらくして名も無い塾だからと、無名塾と命名。

【推薦文】　演出家の丹野郁弓さんは、「ドライビングミスデイジー」で、親子ほどの歳の差がある名優仲代達矢さんを物ともせず、役づくりにポンポン駄目をだしたとか･･･それをまた嬉々として受け入れるその仲代さんの素敵さを、冊子「新劇運動とともに生きる」の鼎談の中で奈良岡朋子さんが披露しています。今度の「ホブソンの婿選び」でもそんな舞台づくりが展開されていくのでしょうか･･･仲代さん扮する産業革命前の古き良き時代のイギリスの頑固おやじが、完璧に仕組まれた娘たちの反逆にあって、痛快なまでに威厳を剥ぎ取られるストーリーは、丹野さんが再び仲代さんを＜しごく＞であろうと思われる姿とオーバーラップして大いに笑わせてもらえる予感がするのです。

（北アルプス・松本）

例会ラインナップ

7月例会

長　野　上　田　まつもと　伊　那

オペラ

ネズミの涙

オペラシアター こんにゃく座

作　◆鄭義信
作曲◆萩　京子
台本◆鄭義信
演出◆鄭義信

出演◆
・川鍋　節雄（予）
・梅村　博美（予）
・佐藤　敏之（予）
他
ピアノ１

舞台は縁の下の戦場。主人公は、おんぼろバスで、あっちこっちの前線を旅して回るテンジクネズミの‘天竺一座’。座員は、父親マンガン、母親スズ、息子チタン、娘リンの家族4人。一座の演目はたった4人で演じる「西遊記」だけ。

野ネズミの軍曹タングステンに見初められ、軍隊へ入り一座を離れるチタン。リンに恋した野ネズミの兵士ニッケルは、一座についてくる。そして、娼婦コバルトも一座に加わる。

英雄に祭あげられたチタンは惨殺され、ニッケルと結婚したリンは、ドブネズミの奇襲を街へ知らせようと、バスの上で太鼓を鳴らし続け、銃殺される。米粒より小さいネズミたちの涙が世界を覆う。

3人となった天竺一座、コバルトも一緒に、ドブネズミ隊の待つ次の興行地へ向けて、旅支度を始める。新たな出発に空から光るものが降ってくる。明日も明後日も、旅は続く、戦争も続く、それでも、おんぼろバスで道をゆく、生き抜いていく、笑って、泣いて、それでも…天竺一座の旅は続く。

【劇団紹介】 こんにゃく体操による身体訓練を続け、日本語がはっきりわかるオペラを創作上演するオペラ劇団として1971年に創立。座付き作曲家の林光、萩京子の作品を中心に、演劇性を重視し、演出面にも斬新な発想を提示し、こどもからおとなまで楽しめる多彩なレパートリーで全国旅公演を続けている。

【推薦文】 2003年11月例会「まげもん」からもう8年、あのこんにゃく座が帰ってくる！日本語による日本人のオペラをやりたいという劇団の思いを、実感したのは「まげもん」の台本だった。ほとんど全篇が楽譜になった台本は、正直驚きとしか言いようが無かったのを覚えている。台本･作曲･演出とも「まげもん」のメンバーときては、面白くないわけがない！でも、それだけじゃないところが「こんにゃく座」のオペラだ。ただただ待ち遠しい！乞うご期待！！　（まつもと･望月）

9月例会

運営を担当する例会を

あなたのサークルは、どの例会を担当しま

長　野　上　田　まつもと　すわ湖　伊　那　いいだ　北アルプス

親の顔が見たい

劇団昴

作　◆畑澤　聖悟
演出◆黒岩　亮

出演◆
・西本　裕行
・小沢　寿葵恵
・姉崎　公美
・宮本　充
・林　佳代子
・金房　求
・落合　るみ
他

都内カトリック系私立女子中学校の会議室。そこに集まる保護者たち。彼らは、いじめを受けて自殺した生徒の遺書に名指しされた加害者の親たちである。

年齢も、生活環境も職業も違う親たちは、真実の究明をよそに、我が子を庇護することに終始する。遺書を隠蔽しようとする親。しかし、遺書は複数投函されていた。時間と共にいじめの凄まじい真相が暴かれていく。怒号が飛び交う会議室。そこには、子供たちのいじめを通して、それぞれの親たちの“顔”が浮き彫りになる。

【劇団紹介】 劇団の源流は1963年(昭38)に設立された (財)現代演劇協会です。往時、劇団雲と欅の二つの劇団を結成しましたが、76年(昭51)から二つを統合して昴がスタートしました。2006年、本拠地三百人劇場閉館に伴い協会の傘下を離れ、現在、新旧ジャンルにとらわれず優れた舞台の上演を続けています。

【推薦文】 題名にひかれて観に行った。緊迫感溢れる会話。スリリングなミステリー展開。愚行に走る父兄をリアルに描く。しかし、それは子を守るために陥る悲しい人間として描かれている。特に、出口のないところに追い詰められる教師夫婦が痛く切ない。息が詰まるような重いテーマに真正面から挑んでいて、心を揺さぶる舞台である。一言の台詞も聞き逃せない、一瞬も目が離せない。その緊迫感、臨場感は『十二人の怒れる男たち』に重なるものを感じた。

(上田･小林)

サークルで話し合いましょう

すか？-例会運営は全サークルの力で！

11・12月例会

長　野　上　田　まつもと　すわ湖　伊　那　いいだ　北アルプス

てけれっつのぱ

劇団文化座

作　◆蜂谷　涼
脚色◆瀬戸口　郁
演出◆西川　信廣

出演◆
・佐々木　愛
・有賀　ひろみ
・阿部　敦子
・津田　二朗
・沖永　正志
・小谷　佳加
他

時は明治14（1881）年、商人や船乗りが往き来し活気溢れる小樽の町なかに、煮売り、代書、髪結い、俥などを商う小さな店「きし屋」があった。そこに肩寄せ合って生きているのは、年齢もバラバラ、と言って家族でもない、いわくありげな三人の女だった。彼女たちはなぜ結びつき、ここ北の果て小樽にたどり着いたのか？　そしてやくざから立ち退きを迫られている「きし屋」の運命は？

明治維新そして文明開化。価値観が大きく転換する時代であった。様々な人生が激動のなか流転する。その運命に流される者もいれば、立ち向かい、抗い、力強く生きようとする者もいる。

江戸の名残をとどめる文明開化の東京と、開拓まもない北海道は小樽で、愛憎と人情に満ちた悲喜劇が繰り広げられる―

【劇団紹介】　井上正夫演劇道場のメンバーであった佐佐木隆、鈴木光枝らによって結成。1945年、旧満州での巡演中敗戦を迎え、1年間の抑留を強いられた。『地から湧いた演劇』を提唱し、底辺に生きる人々に光を当てると同時に『戦争と人間』『日本及び日本人』というテーマは、現在でも色あせる事はない。近年の充実した創造活動は各界から注目を集めている。来年、創立70年を迎える。

【推薦文】　「きし屋」に暮らす3人の女とそこに集う人々―激動の時代をひたむきに生きる彼らを、力強く、暖かく、粋に、コミカルに描いています。登場人物の一人ひとりが魅力的であり、"心意気"溢れる舞台。タイトルの「てけれっつのぱ」は、三遊亭円朝作の古典落語「死神」の呪文ですが、この芝居を観終わった帰り道は心満たされ、「てけれっつのぱ！」と口にしてしまうことでしょう。　（伊那・唐澤）

1月例会

運営担当の時は、まず

自分たちで招いた劇団を、皆で協

長　野　上　田　まつもと　伊　那

宴会泥棒

劇団NLT

作　◆
　G・スカルニッチ
　/R・タラブシ
脚色◆釜　紹人
演出◆釜　紹人

出演◆
・林　与一
・旺　なつき
・川端　槇二
・木村　有里
・加納　謙次
・渡辺　力
・山田　登是
他

ナポリの裏町にあるアパートの最上階。居間、食堂、娘の寝室も兼ねた一部屋が舞台。家主レオニーダ・パパガットウ氏の職業はなんと泥棒。招かれてもいない他所の結婚披露宴やパーティーに出かけては、出された料理を食べずに特製のポケットに入れて持ち帰るというもの。本人は罪の意識もなく、これは芸術であり、天才だけが務められる立派な職業と思っているらしい。

アパートの住人達が、断りもなく家族同然にこの部屋に出入りするのは、レオニーダの陽気で天真爛漫な人柄のせいであろうか。しかし、おおらかな彼も女房の浮気を疑っている。一方、レオニーダの内縁の妻マリアは、なかなか彼への愛情を素直に表現できない。それどころか、向かいの住人アントニオの誘惑を憎からず思うような素振りすら見せている。

そんなある日、レオニーダは今の仕事だけでは大家族を養えないと、あることを思いつくものの計略は思うようには進まず、犯罪者をかくまわなくてはならなくなってしまう。しかし、それも金儲けにつなげようとして・・・。

【劇団紹介】　1963年12月に文学座を退団した俳優、演出家が翌年1月にNLTを結成。NLTは岩田の命名で新文学座を意味するラテン語ネオ・リタラテール・テアトルの頭文字。1968年6月から代表を賀原夏子とし、演目をブールヴァール劇と呼ばれるフランスの通俗喜劇に変える。以来40年以上、創作の主軸は喜劇となる。その後、各国の秀作コメディを含め、創作劇もレパートリーに加えている。

【推薦文】　"宴会泥棒"という奇妙な仕事で家族を養っている。宴会で知り合った貴族から金をしぼり取ろうと詐欺まがいの慈善活動を持ちかけ、あの手この手を使って目的を達成しようとする様子、貧しさゆえの行為や遺産目当ての後見人、真実の愛…様々な出来事に直面しながら物語はどんどん展開していく。ちょっぴり悲しく切ない。腹立たしくもあり、そして滑稽で笑いあり、あっという間の時間です。（長野・大塚）

サークルで１名クリア！

力しあって迎え、素敵な出会いを

長　野　上　田　まつもと　すわ湖　伊　那　いいだ　北アルプス

3月例会

蟹工船

―村山知義演出による―

東京芸術座

作　◆小林　多喜二
脚色◆大垣　肇
演出◆印南　貞人
　　川池　丈司（客員）

出演◆
・川副　博敏
・北村　耕太郎
・笹岡　洋介
・井上　鉄夫
他

昭和のはじめころ―

食いつめて、“自分を売る”より仕方がなくなった男たちが、函館の港に集ってきた。

蟹工船・博光丸はボロ船で、カムサッカの荒海でメリメリと音を立てて鳴っている。

漁夫、雑夫たちは重労働と粗悪な飯で身体を悪くした。何人もの漁夫がこの北の海で死んだ。「このままでは殺される」…

大時化(おおしけ)の時も出漁の命令が下される。

彼らはおっかなびっくりサボを始めた。そして、遂に、自分たちの力でストライキを起こし、“要求”を突き出した。

しかし、待っていたのは味方と思っていた帝国海軍による弾圧と逮捕であった。

だが、会社と軍隊の正体を知った彼らは「ん、もう一回だ！」

彼らは立ち上がった…もう一度。

【劇団紹介】 東京芸術座は戦前から活躍してきた演出家・村山知義を代表とする新協劇団と名優・薄田研二を代表とする中央芸術劇場とが合同して1959年に結成されました。東京での一般公演・アトリエ公演・実行委員会形式による地域公演学校公演・演劇鑑賞会や子ども劇場の例会公演・マスコミ出演と多様な活動を展開しています。

【推薦文】 芝居を観て"船酔い"を感じるとは思わなかった！北の荒れ狂う海の上をゆく蟹工船が波に洗われ、大きく揺れる！舞台の上を人が転がっていく‥観ている我々も右に左に前、後に体が揺れるのを感じる‥‥。客席も部隊と一体となり、船の中に放り込まれるー。すごい体験だ！

もう、こんな芝居は観る事ができないと思っていた。荒くれ男たちの腕や手、顔、背中が目の前に迫り、汗も臭いまで飛んできそうな、圧倒的な群集劇！本当に体で観る芝居だ！力強く生きる、生き抜く、事を、我々に投げかけ、決してあきらめない彼らの姿を見ていると、今、この時にこそ我々に必要な力となることが確信できる、そんな舞台。

（すわ湖・関島）

1 佐賀のがばいばあちゃん

劇団NLT

広島から母の故郷佐賀に預けられた小学生の昭宏を迎えたのは厳しい終戦期に７人の子供を育て上げた“がばい（すごい）ばあちゃん”だった。ばあちゃんとの暮らしはモーレツな貧乏生活。しかし、家には笑いがあふれていた。大ヒット小説の番外編と言える舞台版。全国各地で笑いと感動を巻き起こしています。

原作◆島田　洋七
脚色◆青木　豪（脚本）
演出◆釜　紹人

出演◆
・阿知波　悟美
・弓澤　公望
・佐藤　淳
・杉山　美穂子
他

◆　◆　あらすじ　◆　◆

中学卒業後、昭宏は広島に戻り野球の名門高校でレギュラー獲得のため猛練習に励んでいた。しかし、練習中の事故により野球を断念せざる得なくなり生きがいをなくしてしまう。そして高校を卒業して漫然と暮らしていたある日、彼は佐賀のがばいばあちゃんの家を訪れた。

久しぶりのばあちゃんの家で昭宏を出迎えたのは、10年前に出会ったという珍客であった。そこで少年時代の、ばあちゃんと暮した懐かしい記憶も甦る。だが、昭宏が佐賀に戻ってきたのは大きな目的があったのである･･･。舞台は昭和44年と、その10年前の昭宏の少年時代が交錯し、ばあちゃんとの交流により彼が成長していく姿が描かれる。また現在の昭宏の悩みも同時に解き明かされていく。

「貧乏は二通りある。暗い貧乏と明るい貧乏。うちは明るい貧乏だからよか。」と笑い飛ばす“佐賀のがばいばあちゃん”の初の舞台化。昭和30年代の貧しい中にも明るく生きた人たちの優しさやたくましさが今を生きる私たちに勇気を与えます。

◆　◆　かいせつ　◆　◆

『佐賀のがばいばあちゃん』は島田洋七の大ベストセラーを原作とする、NLTには珍しい創作劇です。映画、テレビ化もされましたが舞台は原作からすると番外編の趣で、ばあちゃんの家に預けられた少年時代ではなく、昭宏が20歳の時、昭和44年が主な舞台です。怪我で野球選手の夢が破れ、恋人と駆け落ちを決意する一夜を軸に、祖母のサノとの少年時代の思い出をオーバーラップさせながら、漫才師になってからの挫折も巧みに織り交ぜる構成は巧です。しかも阿知波が演じるサノばあちゃんは名言を語りますが、等身大の人物設定がリアルな舞台となりました。セリフの良さとアンサンブルを活かした演出が、貧しくも助け合い笑って暮らした古き良き日本を再現し、見ごたえのある喜劇に仕上げました。

2 彦六大いに笑う

海流座

「あんたが大将！」と声をかけたくなる芝居です。人間は面白いです。
悪い奴も、良い奴も… みな一所懸命に生きています。
意気揚揚と海流座の魅力いっぱいの舞台です。

作　◆三好　十郎
演出◆米倉　斉加年

出演◆
・米倉　斉加年
・上野　日呂登
・尾鼻　隆
・溝口　貴子
・助川　汎
・青山　恵子
・山梨　光國
他

◆　◆　あらすじ　◆　◆

昭和初期の新宿を舞台とした話。デパート建設のために立ち退きを強いられている一廓。二階のビリヤード場の旭亭と階下の酒場が舞台。ビリヤード場の主人彦六は立ち退くまいと申し合わせたこの一廓の代表である。いまではこの一軒が残っているだけで廃墟のようである。それでもこの主人は居座っている。ダンサーの娘千代、後家気取りのお辻の三人暮らしだ。酒場の主人井伏はお辻と示し合わせて立ち退きを画策している。やくざの土地ブローカーも絡んでくる。

ゴタゴタした中、故あって出奔して久しい彦六の息子彦一が現れる。さて、彦六を巡って織りなす人間模様は…。三幕、一夜の芝居！

◆　◆　かいせつ　◆　◆

米倉斉加年主宰「海流座」公演をより発展させようという主旨の公演です。「海流座」は築地小劇場からのリアリズム演劇を継承し、近代古典劇を軸に、高い芸術性を維持しながら、大衆に根ざした演劇を標榜しています。

旗揚げして5年、継続的な公演の要望をいただき、芸術的にも一定の評価を得て多くの方の支持を受けています。その上で中間演劇と言われ新劇の芸術性と新派の大衆性と併せ持つ舞台を目指した、三好十郎の作品を取り組むことにより、人間をより高度に表現する術を身につけ新劇を発展的に継承し、より大衆に根ざした演劇を創ろうという公演です。

3 モリー先生との火曜日

加藤健一事務所

「どう死ぬかを学べば、どう生きるかは自ずと分かってくる。」
毎週火曜、僕は先生の自宅に通った。
ALSという難病に侵されたモリー先生の最後の講義を受けるために･･･。

作　◆ミッチ・アルボム
訳　◆吉原　豊司
脚色◆
　ジェフリー・ハッチャー
　ミッチ・アルボム
演出◆高瀬　久男

出演◆
・加藤　健一
・加藤　義宗

◆　◆　あらすじ　◆　◆

スポーツライターとして第一線で活躍するミッチ（高橋和也）は、ある日偶然見ていたテレビで、大学時代の恩師モリー・シュワルツ教授（加藤健一）がルー・ゲーリック病（筋委縮性側索硬化症／ＡＬＳ）という難病であることを知る。ミッチは、わずかな余命をトコトン生きる教授の姿に胸をうたれ、モリー先生との再会を果たす。そして、毎週火曜日、「人生の意味」を説く、モリー先生の講義が始まる。講義のテーマは「死」「恐れ」「老い」「欲望」「結婚」「家族」「社会」「許し」「人生の意味」など･･･。

ダンスを愛し人生を謳歌していたモリー先生と、音楽に魅せられピアニストを志していた元教え子のミッチ。

１６年の時を経て再開した二人だけの講義が、始まる･･･。

◆　◆　かいせつ　◆　◆

「モリー先生との火曜日」は、アメリカで実際にあった話です。モリー・シュワルツ教授の大学時代の教え子のミッチ・アルボムが書いたノンフィクション小説は大ベストセラーになり、日本でも出版されています。

モリー先生が自分の命を懸けて、死ぬ間際までテープに録音した講義を文章におこしたもので、本当の意味で“言葉の持つ力”があり、世界中の人々を感動させています。

死を目の前にした人の言葉なのに、「生き方」を教えてくれるモリー先生。こうやって生きれば、楽しく有意義に人生は送れるよ……と。

芝居全体が、毎週火曜日にミッチがモリー先生を訪ねて、生き方についての講義を受けるという構成で、いつのまにか観客も、モリー先生の話を聞いている生徒のひとりになってしまったような気持にさせられます。見終わってから、爽やかな感動が残る作品です。

4 出番を待ちながら

木山事務所

引退した元女優たちは、私たちに晩年ということ、誇りということ、希望ということをユーモラスに語りかけ、“人生捨てたものではない”という気持が溢れる。

作　◆ノエル・カワード
訳　◆高橋　知伽江
演出◆末木　利文

出演◆
・三田　和代
・新井　純
・加藤　土代子
・大方　斐紗子
・堀内　美希
・長内　美那子
・山本　与志恵

◆ ◆ あらすじ ◆ ◆

現役を引退した女優たちが慈善ホームに入り、そこでの悲喜こもごもの生活を描いたウェルメイド・プレイの傑作。それぞれが舞台や映画で活躍した人びとだが、今もなお現役の頃の“地位”や“愛憎”を引きずっているので、全員がウマが合うということにはならない。特にロッタとメイの二人はかつての大スター同士で、プライベートな男性関係もからんで口もきかない有様。その他の人びとも実生活の苦労があったり、認知症が始まったり。彼女たちの晩年の人生は観客の人生と重なり合う。そんな生活の中にも、得意の歌や踊りが飛び出して、喜び合い、励ましあい、誇りを持って生きていく。

◆ ◆ かいせつ ◆ ◆

名匠ノエル・カワードの傑作で、1999年12月ニューヨークにて上演。ローレン・バコールとローズマリー・ハリスの二大女優の出演で話題になった。この舞台を見た複数の日本の演劇人が上演を希望したが、木山事務所が06年4月に初演し、好評をいただき再演を重ねている。引退した女優役に日本演劇界から個性的な年輩の女優を配役。彼女たちの実人生と役の人生とがせめぎあい、それが観客の人生に同調する。普遍的な晩年の人生が、イギリスの作品らしくユーモアとウイットをもって語られる。

5	化粧	こまつ座

大衆演劇座長、五月洋子が見たのは現実なのか？
それとも夢なのか？
日本最高峰の一人芝居！

作　◆井上　ひさし
演出◆鵜山　仁

出演◆
・平　淑恵

◆　◆　あらすじ　◆　◆

場所は、東京下町の芝居小屋の楽屋。そこにいるのは大衆劇団「さつき座」の女座長五月（さつき）洋子、46歳。間もなく初日の幕を開けるために舞台化粧にとりかかる。バックに演歌が流れ、情緒たっぷり。女座長は客席に顔を向け、鏡台に向かってるつもり。白塗りから衣裳をつけ、カツラをかぶりヤクザの伊三郎へと変身して行く。「伊三郎別れ旅」の稽古を始めながら、若い座員を叱りとばしたり、老座員の頼りなさに腹をたてたりして、身振り手振りで演じて見せる典型的母もの芝居をしながら、女座長がかつて捨てた息子との「再会」を重ねあわされる。虚構と現実が化粧をしながら交錯する。二幕ではどんでん返しがおこる。これまでの事は狂女が解体寸前の元芝居小屋の楽屋で孤独に演じ続けていた切ない一人芝居であることが判明する。

◆　◆　かいせつ　◆　◆

『化粧二幕』は地人会第3回公演として1982年12月3日～7日まで下北沢スズナリにおいて木村光一演出で初演しました。一幕は同年7月に三越ロイヤルシアターで“六人の作者と六人の女優によるひとり芝居”連続公演企画の『母たち』で初演しました。勿論、こまつ座が誕生する前です。井上ひさしにとって初めての一人芝居。

こまつ座では今回鵜山仁演出で初めて文学座の平淑恵さんを迎えて『化粧』を上演いたしました。

平淑恵さんは紀伊國屋演劇賞個人賞を2度（第18回と第31回）受賞している文学座を代表する女優です。鵜山さんとは文学座公演『愛と偶然の戯れ』『十二夜』『息子です、こんにちは』、近年は『戯曲　赤い月』『長崎ぶらぶら節』と一番組んでいる仲です。信頼関係は揺ぎ無いものがあります。満をきしてのこまつ座への登場です。

6	ミュージカル **楽園**	劇団スイセイ・ミュージカル

「一部の人が望んだ楽園は、多くの人にとっての地獄だった･･･」
時代に翻弄されながらも、懸命に生きる人々の姿を描いた衝撃作！

作　◆西田　直木
演出◆西田　直木

出演◆
・吉田　要士
・中村　香織
・吉村　美喜子
・星野　真衣
・田代　久雄
他
劇団スイセイ・ミュージカル

◆ ◆ あらすじ ◆ ◆

時は現代、ハワイのホノルル空港。日本の大学でハワイ史の講師をしている亜矢子は、出版する本の取材のため、ハワイにやってきたが、取材とともに、もうひとつハワイに来た目的があった。

亜矢子が子供の頃からよく見る不思議な夢･･･。彼女は運命に引き寄せられるように、ハレイワのある老人施設を訪れる。そこで出会ったのは日系二世の女性、治子。彼女は、亜矢子の顔をじっと見つめると、重い口を開き、語り始めた･･･。

時は遡り、1941年ハレイワ。日系二世の星司は、生まれ育ったハレイワの街で家族とともに平穏な毎日を過ごしていた。ある晩、星司はハワイアンの美しい女性、レイラーニと出会う。自然を愛し、自然と共存するレイラーニ、そして音楽を愛し、大きな夢を抱く星司。二人は人種の壁を乗り越え、互いに惹かれあっていく。しかし、戦争の暗い影が容赦なく忍び寄っていた･･･。

そして12月7日、真珠湾攻撃により太平洋戦争が勃発。アメリカと日本の狭間で星司たち日系二世の想いは激しく揺さぶられる。そんな中、星司は442連帯に志願し戦地へと向かう。星司の帰りを待つレイラーニ、真珠湾攻撃によって婚約者を失ったレイラーニの姉カレア、戦争によって狂っていく人々を目の当たりにしてしまう星司の妹の治子･･･翻弄された人々の結末は･･･

◆ ◆ かいせつ ◆ ◆

ハワイを舞台に、真珠湾攻撃によって引き裂かれた人々の姿を、繊細に描いた人間ドラマ。ハワイアンミュージック、フラ、そしてミュージカルならではの華やかなショーシーンを織り交ぜ、物語は目まぐるしく展開していきます。

この時代だからこそ描く、愛と平和をテーマにした、劇団スイセイ･ミュージカルのオリジナルミュージカルです。

7	島	青年劇場

1951年、瀬戸内海の小島。
被爆した青年教師と、家族、友人、そして島に生きる人々。
時代に立ち向かい、「未来」を求めて生き抜く人たちがここにいます。

作　◆堀田　清美
演出◆藤井　ごう

出演◆
・上甲　まち子
・藤木　久美子
・吉村　直
・清原　達之
他

◆　◆　あらすじ　◆　◆

1951年、瀬戸内海の小島。20歳の時に広島で原爆に遭い、母･ゆうの介護によって九死に一生を得た栗原学は、故郷の「島」へ戻り教師をしている。島は前年に始まった朝鮮戦争の特需によって支えられ、学の妹･史はアメリカの進駐軍で働き、叔父の大浦は“魚雷ばらし”で儲けている。

学は、平和だが刺激のない「島」を出て自立したいとひそかに考えているが、母を思い言い出せないでいる。ある日、東京で働いている学の同級生･清水が現れる。かつて学とは1、2を争う仲だった清水は、戦争で生活を成り立たせている「島」の矛盾を語り批判する。学は複雑な想いをますます募らせてゆき･･･。

◆　◆　かいせつ　◆　◆

被爆者の実相を初めて描いた演劇として、1957年劇団民藝で初演、大きな反響を呼び、翌年には岸田國士戯曲賞を受賞しました。

今回演出に迎えた30代の藤井氏は、被爆者という運命を背負わされた主人公の葛藤を軸に、「時代や境遇に立ち向かう人々の群像劇」として名作に新しい魂を吹き込みました。

被爆、戦争、貧困という「死」の影に翻弄されながらも、その土地で懸命に生き抜こうとする島民たちの「生」。そのほとばしるようなエネルギーは圧倒的な人間賛歌のメッセージとなり、同じく閉塞の現代に生きる私たちに希望と勇気を与え、『リアリズム演劇を本領とする青年劇場の実力が発揮され、見応えのある舞台』(テアトロ)等、多くの劇評と感動の声をいただきました。

8 黄昏（たそがれ）

劇団青年座

映画で有名な『黄昏』は、元々はブロードウェイで大ヒットした演劇作品。誰にでも訪れる「老い」と「死」への恐怖。少年との出会いによって老夫婦の心が静かに動き始める。

作　◆アーネスト
　　・トンプソン
訳　◆たかしまちせこ
演出◆伊藤　大

出演◆
・津嘉山　正種
・岩倉　高子
・田中　耕二
・那須　佐代子
・横堀　悦夫

◆ ◆ あらすじ ◆ ◆

アメリカ北東部ニューイングランド地方。大小の湖とそれを取り囲むように緑深い森が広がり、ゴールデンポンドと呼ばれる湖もその中にあった。朝夕に照らし出される湖面は《黄金》に輝き、湖畔の閑静な別荘は都会の喧騒から離れ一夏を過ごす人々の安らぎの場であった。

間もなく80歳を迎えるノーマンは、このところ忍び寄る老いと「その時」に怯え苛立っていた。そして妻エセルは夫のことが気がかりでならなかった。

ある日、父を愛しながらも、心通わぬまま家を飛び出した一人娘チェルシーが、新しい恋人と彼の息子を伴って8年ぶりに帰って来た。この少年との交流を通して、老夫婦の心は、ゴールデンポンドに広がる波のように静かに揺れ動き始める･･･

◆ ◆ かいせつ ◆ ◆

青年座公演『黄昏』は、今は亡き創立メンバーである森塚敏、東恵美子の配役で1994年に初演されました。二人の最後の共演となった作品を津嘉山正種と岩倉高子が引き継ぐことで、劇団の財産レパートリーとして継続したいと考えています。『無法松の一生』や『殺陣師段平』で男の生き様を激しく演じた津嘉山が、『黄昏』では「老い」に苛立ち「死」に恐怖する80歳の老人を繊細に表現します。そして夫ノーマンの心情の変化を明るく受け止める妻エセルに岩倉。この二人を中心に青年座の主力俳優が脇を固める質の高いアンサンブルをご期待下さい。

津嘉山は、本作での演技が評価され、平成22年度芸術選奨文部科学大臣賞を受賞しました。

9

夢千代日記

劇団前進座

海鳴りする　山陰の温泉町……
置屋の女将・夢千代と
傷ついた人たちとの織りなす――人間模様
もう少し　生きて
みようと思います
大勢の命の道連れ
がいるのです
いいでしょう
　お母さん

作　◆早坂　暁
脚色◆志村　智雄
演出◆志村　智雄
　　・橋本　英治

出演◆
・今村　文美
・高橋　佑一郎
・いまむらいづみ
・西川　かずこ
他

◆　◆　あらすじ　◆　◆

城崎温泉を過ぎた山陰の山峡(やまあい)にある余部(あまるべ)鉄橋を越えると湯の里温泉がある。夢千代は、この町で母から受け継いだ小さな置屋《はる家》を営んでいた。そこには菊奴・金魚といった芸者達や賄いのスミという女たちが肩を寄せ合うように暮らしている。

その《はる家》に、ヤクザに襲われ怪我をした記憶喪失の男・マコトが迷い込んだ。彼は、《はる家》で世話になっているうちに、この町で暮らそうと思うようになり、夢千代もまた、マコトの力になりたいと思うのであった。

そんな《はる家》に事件が持ち上がる。スミに、来日中の中国残留の子が、あなたの息子かも知れないというのである。その場にスミは泣き崩れるばかりであった。

一方、マコトを襲ったヤクザは沼田といって山陽会の者で、《はる家》を買い取ろうと画策していた。ところが、沼田は実はあのピカの広島で、夢千代の母に拾われこの《はる家》で過ごしたことがあり、その時の赤ん坊が夢千代であることが解った。

そして、……。

◆　◆　かいせつ　◆　◆

原作は、NHK・ドラマ人間模様として、1981年から1984年まで放映されています。

被爆65年の昨年(2010年)、早坂氏の快諾を得て、台本・演出ともに前進座で創らせていただけることになり、10月前進座劇場にて幕を開けました。夢千代には、今村文美。“被爆”という宿命に、目を逸らさず立ち向かおうとする“たたかう夢千代”が、誕生しました。

「“あと1年しか”ではなく、“あと1年も生きられる”というセリフに、生きていることの意味を考えさせられた。」

「夢千代には弱々しいイメージがあったが、元気な夢千代も前進座らしくて良かった。」

など、たくさんの感想が寄せられました。重いテーマであるにも関わらず、常に前向きに生きる彼女達の姿に、励まされる方も多かったのでしょう。

この作品では、いまむらいづみ、西川かずこを始めとして女優陣の活躍も見所の一つです。温泉町のお座敷、旅回り一座のシーンでは、前進座ならではの歌や舞踊、立ち回りも堪能していただけます。

10	フレディ	テアトル・エコー

突如殺人事件の容疑者にされてしまったフレディ。
このピンチを逆手に取って･･･サーカス一座起死回生の大博打！
いつもの例会場がサーカス小屋に変身します。

作　◆ロベール・トマ
訳　◆上原　一子
監督◆熊倉　一雄
演出◆上原　一子

出演◆
・安原　義人
・田村　三郎
・川本　克彦
・杉村　理加
・きっかわ佳代
他

◆ ◆ あらすじ ◆ ◆

天才クラウン、フレディ率いるサーカス一座。かつての人気も今は昔、時代の流れと共に客は減るばかり。金策に走るフレディだが、訪ねたパトロンが何者かに殺され、殺人犯の疑いをかけられてしまう。このピンチに起死回生の代博打に出るフレディ一座。彼らの行く先は、死刑台への階段か、成功への階段か、それとも･･･

◆ ◆ かいせつ ◆ ◆

2008年に恵比寿･エコー劇場で上演し好評を得た作品です。主演の安原義人は持ち味の軽妙洒脱な魅力全開。サスペンスタッチの本編を怪しくカラフルに彩るのは個性豊かなサーカス団員たち。ジャグリング、玉乗り、アクロバットと出演者の特訓の成果がサーカスの雰囲気を盛り上げます。作者のロベール･トマはフランスのヒッチコックと呼ばれるサスペンス･コメディの名手。マスメディアと大衆心理をピリッと風刺しつつ、人間の多面性を愛ある眼差しで描き出します。この世はサーカス。人間の本性が見たければサーカスの舞台裏へ。エコーらしい遊び心に満ちた舞台と客席の一体感溢れる作品にご期待ください。

11	ハムレット	劇団東演

「どん底」に続くダイナミックな舞台が誕生！
迫力溢れる新しい「ハムレット」で元気になって下さい。

作　◆シェークスピア
訳　◆佐藤　史郎
　　・外塚　由利子
演出◆V.ベリャコーヴィッチ

出演◆
・南保　大樹
・能登　剛
・武正　忠明
・V.ベリャコーヴィッチ
他

□撮影：根岸ふじ枝

◆ ◆ あらすじ ◆ ◆

エルシノア城に現れた亡霊。

デンマークの王子ハムレットは、父の死因は現国王の叔父（クローディアス）の謀略によるものであったことを知らされる。しかし、母（ガートルート）は何事もなかったように叔父と再婚、王妃として君臨している。

そして亡き父の亡霊と誓った「復讐」にハムレットは苛まれながらも、母への思いが強まれば強まるほど己の運命を呪い、時には弱気に、時には狂気に走りながらその機会を狙っている。

宰相の娘・オフィーリアはハムレットに心を寄せるのだが、ハムレットの心は‥‥。

◆ ◆ かいせつ ◆ ◆

「どん底」に続く、ベリャコーヴィッチと劇団東演の意欲作です。「ハムレット」は言うまでもなくシェークスピアの傑作中の傑作、世界中で、そして日本でも何度となく上演されてきました。市民劇場でも過去、話題の舞台として例会に取り上げられその都度感動を生み出してきたと思います。しかし今回の舞台は、今までの常識を遥かに超えるスペクタクルとしての迫力、舞台狭しと疾走する俳優たち、闇と光と音楽、シンプルな物語、そして何と言っても新に「ハムレット」役者、南保大樹の登場です。演出家ベリャコーヴィッチの手で魔法のように生み出され、華開いたハムレット。閉塞感あふれる現代に風穴に開けようと力一杯挑み、2011年3月の初演で見事に新しい可能性を見出しました。皆さんの所に是非お伺いしたい「ハムレット」、演劇の魅力が劇場中に溢れ、絶対元気になりますから。

12

桜の森の満開の下

東京演劇
アンサンブル

舞台芸術の可能性をとことん追求した、エンターテインメント性豊かな、美しく切ない絵巻……『桜の森の満開の下』を、ぜひお楽しみください。
東京でも海外でも連日満席の人気作品です。

原作◆坂口　安吾
脚色◆広渡　常敏
演出◆広渡　常敏

出演◆
・公家　義徳
・原口　久美子
他

◆　◆　あらすじ　◆　◆

鈴鹿の山中に棲む男は、通りかかる人々を襲って生きる山賊だった。ある日高貴な男女の二人連れを襲い、夫を斬り殺して女を奪ってしまう。男は初めて心にざわめきを覚え、女に尽くそうとする。美しい女は、山で自由奔放に生きる山賊に心惹かれる。しかし単調な暮らしに飽きて、都へ連れて行ってくれるように懇願する。

男は女を都に連れて行く。そして金銀財宝を山と積んでやるのだが女の欲望は果てしない。自由のない都の暮らしに飽き飽きし、女の際限のない欲望に愛想をつかした男は、一人で山へ戻ると告げる。すると女は初めて男に寄り添い、自分も一緒に帰ると言い出す。男は、従順な女に驚き有頂天になり、女を連れ帰る。が、桜の森の満開の下にさしかかったとき、女は鬼に変わり男を襲う。

◆　◆　かいせつ　◆　◆

『桜の森の満開の下』は伊勢物語のような物語絵巻です。金屏風に桜吹雪という美しい舞台で、男と女のお伽噺が繰り広げられます。

他人と関わりを持たないで生きてきた一匹狼の男が初めて女に恋したとき、自分のなかに生まれた人間的な感情――寂しさ、喜び、切なさに、男は激しく動揺します。

妻とか母とか夫とか父親とか会社員とか……、そういう社会的な役割を課せられて生きているわたしたちからその役割を取り去って、「わたしってなんだ?」と根源的に問いかける作品です。

13 「はい、奥田製作所。」 劇団銅鑼

大田区町工場で繰り広げられるじいさん・若者・子どもたち三世代のバトル。町工場から世界へ。奇跡を生んだ人たちの物語。
企業業績不振の社長さんも社員さんも必見の舞台！

作　◆小関　直人
演出◆山田　昭一

出演◆
・鈴木　瑞穂
・千田　隼生
・佐藤　文雄
・横手　ひさお
・館野　元彦
・菊地　佐玖子
・郡司　智子
他　劇団銅鑼

◆　◆　あらすじ　◆　◆

ここは東京は大田区の旋盤工場。機会音が鳴り響きキリコの屑がドラムカンを埋める。

ガンコ一徹、職人気質の社長が倒れた！！それに輪をかけて親会社の倒産の電話が。

気がつけば、倒産寸前、窮地に立たされる奥田製作所。

大企業の技術課長をリストラされた息子鉄彦は、古い体質を改善し、奥田製作所を立ち直らせようと大改革を宣言。が、従業員とのミゾは深まるばかり。働けど働けど報われない毎日。

工場のおやこ三代を軸に、様々な価値観がぶつかって見えてきたものは…。

◆　◆　かいせつ　◆　◆

劇団銅鑼35周年記念公演として2008年3月に俳優座劇場にて初演の作品です。大田区の町工場を舞台に「働くことと生きること」をテーマにして、銅鑼の創立メンバー（現団友）である鈴木瑞穂、そして劇団の中堅から若手まで全員の力を結集してお届けする舞台です。

初演時にはお客様より、鈴木瑞穂演じる町工場の社長と、熱い思いを持って働く工場の人たちの姿にとても励まされたというご感想をいただきました。

2010年には紀伊國屋サザンシアターにて再演。2011年の全国演鑑連・首都圏ブロックにて年間レパートリー作品に決定しました。

リーマンショックを経て、なお続く不況の波。今の社会にとって必要なことは、お金よりも大切な価値観、即ち「人間を一番大切にした価値観」の創出ではないかと思います。

親会社の倒産で厳しい状況におかれた奥田製作所の人たちは、悩みながらも、紆余曲折し少しずつ生き甲斐を感じはじめてゆきます。

再演時、NHKや各メディアでも報道・掲載され話題となった舞台です。

14 樫の木坂四姉妹

劇団俳優座

新劇を代表する大塚道子、岩崎加根子、川口敦子が競演する堀江安夫渾身の書き下ろし戯曲を、長崎に魅かれ続けてきた袋正が演出する話題作です。

作　◆堀江　安夫
演出◆袋　正

出演◆
・大塚　道子
・岩崎　加根子
・川口　敦子
・平田　朝音
・大庭　藍
・桂　ゆめ
・小澤　英恵
・小澤　木の実
・河原崎　次郎
・武正　忠明
・脇田　康弘
他
□撮影：宮川舞子

◆ ◆ あらすじ ◆ ◆

長崎港を一望する古い石畳の坂道を、土地の人々は樫の木坂と呼んでいる。樹齢数百年を超える樫の老木が葉群を広げる葦葉家は山の斜面を切り拓いただらだら坂の中腹にあり、被爆者である老三姉妹の生活を撮り続けているカメラマンの洲崎が通っていた。

2000年、長崎が夏を迎えようとしていたある日、洲崎は部屋のピアノについて尋ねる。それは四女のゆめが双子の姉の供養のために買ったものだった。

被爆から五十五年・・・、両親と兄、四姉妹の7人家族のあたたかく穏やかな日々がいつまでも続くように思われていたあの頃…。

戦争、特攻による兄の死、姉（妹）の死、被爆…。

「わたし達の毎日には一度だって八月九日が消えたことがなかと―」

戦争が終わっても残された三姉妹は常に忌まわしい過去と被爆の現実に向き合わされていた。

◆ ◆ かいせつ ◆ ◆

20世紀は戦争の世紀といわれ、数多くの人々が戦争の為に戦地や空襲で、そして原爆で命を落としました。しかし被爆して生き残った人々もいます。生き残れたものの、生き残ってしまったという負い目、被爆により結婚を放棄、奇形児出産、自身の体も蝕まれるなど、原爆が残した忌まわしい産物は数知れません。

1944年と2000年の二つの時代の、葦葉家の家族の運命を通して家族の大切さ、原爆の悲惨さ、悲しさ、愚かさを語っていきます。

年老いた姉妹の長女を大塚道子、次女を岩崎加根子、末娘を川口敦子が演じる注目の舞台です。21世紀の今、平和への祈りを込めたこの作品を、是非、長野県演鑑連の皆様に観ていただきたいと思っています。

15	音楽劇 わが町	俳優座劇場 プロデュース

７０年愛され続けてきた名作を音楽劇にして上演。何気ない暮らしの中にあるかけがえのないものを、土居裕子をはじめ美しい歌とピアノにのせて問いかける感動の舞台！

作　◆ソーントン
　　・ワイルダー
訳　◆鳴海　四郎
音楽◆上田　亨
演出◆西川　信廣

出演◆
・土居　裕子
・原　康義
・栗野　史浩
・川井　康弘
・麻乃　佳世
・瀬戸口　郁

◆ ◆ あらすじ ◆ ◆

アメリカ･ニューハンプシャー州の小さな町、グローヴァーズ･コーナーズ。ギブズ医師の息子ジョージと、隣に住む地方新聞の編集長ウェブ氏の娘エミリーは幼なじみ。

穏やかで誠実な両親や町の人々に見守られ成長した二人は互いに恋をし、やがて結婚の日を迎える。

結婚式は町のみんなに祝福され新婚生活は幸せに満ちていた。

だが9年の歳月が過ぎたとき、二人に思いもよらない出来事が訪れる……。

◆ ◆ かいせつ ◆ ◆

1938年に初演されピュリッツァー賞を受賞した「わが町」。この名作をより親しみやすく、より解りやすく上演したいとの思いで音楽劇に再構成しました。

土居裕子をはじめ魅力ある俳優陣が、グローヴァーズ･コーナーズという小さな町を舞台に、何気ない暮らしの中にあるかけがえの無いものを、美しい歌とピアノのメロディーにのせて問いかけます。

上演を終えたばかりの客席からは、感激の涙と称賛の声が寄せられました。

俳優座劇場が渾身の想いを込めてお贈りする、音楽劇「わが町」です。

16

ミュージカル

月のしずく

イッツ・フォーリーズ

埋め立てられた海とともにプライドもなくしてしまった男たちの行場のない切なさと、月の光のような透き通った優しさを表現した透明感あるドラマ・ミュージカル

原作◆浅田　次郎
脚本◆佐藤　万里
演出◆菊池　准

出演◆
・井上　一馬
・茂木　沙月
・大塚　庸介
・安藤　聖
他

◆ ◆ あらすじ ◆ ◆

千葉の埋立地で、30年近くもコンビナートの荷役をしているやもめの佐藤辰夫。十五夜の晩に、彼が偶然道で出会った美しい女と過ごしたたった三日間の物語。

いつも通り、辰夫は仕事終りに仲間と飲んで帰った晩に、車通りのない国道で、不倫相手の松岡と言い争いをして車から放り出された美しい銀座のホステス、エリと出会う。年の離れた美しい彼女とは不釣合いと分かりながら、恋をするようになる辰夫。彼女のお腹には松岡の子どもがいたが、堕ろすために一緒に病院についてきてほしいと頼まれる。不倫相手の身代わりを決心し、辰夫は松岡がリエにプレゼントした同じ時計を買いに迷路のような銀座へ向かうが、彼女にはその気は全くなかった。

◆ ◆ かいせつ ◆ ◆

浅田次郎原作の短編集をミュージカル化。原作者は同じ時期に著作した「鉄道員」が太陽ならば、タイトル通り月のような作品だと言っている。少し欠けてしまってもそれでも優しく静かに照らし続ける月のように、人もそれぞれ欠けた何かを持ちながら、自分の道を歩んでいく。ミュージカルにし難いこの作品をあえてイッツフォーリーズの新作に選んだのは、言葉にならない「月のしずく」を音楽ならば表現できるかもしれないと考えたからである。人の奥深い心の切なさと優しさ、そして欠けた月と見えない海が包み込む美しい音楽とドラマを大切にしたミュージカル。イッツフォーリーズの井上一馬が自分の新境地として挑んだ作品として好評を得た。

17　銀の滴　降る降る　まわりに　劇団文化座

沖縄戦での沖縄人とアイヌ人の心の交流を描くことで、現代日本の問題も提起することができるのではないか。劇団に新たな１ページを刻む、エポックメイキングな作品になりました。

作　◆杉浦　久幸
演出◆黒岩　亮

出演◆
・佐々木　愛
・阿部　勉
・米山　実
・沖永　正志
・白幡　大介
・中村　公平
他

◆　◆　あらすじ　◆　◆

1944年初秋。旭川独立速射砲大隊は、沖縄は首里郊外、運玉森において陣地の構築に取り掛かっていた。運玉森に近い与那城家は徴用され大隊の兵舎兼炊事所として使われていた。ここで任務につく炊事兵たちの中に糧秣調達係として働く冨田栄吉がいた。冨田は兵士たちからアイヌであることで差別的な扱いを受けていた。

10月10日、炊事兵として現地徴用された中里幸吉が現れる。無愛想な中里と卑屈な態度を取る冨田の関係は初対面からぎくしゃくする。

1945年に入り戦況が悪化する中、冨田と中里は任務を遂行するうち、いがみ合いながらも心を通わせ始める。そして冨田もアイヌとしてのアイデンティティを呼び覚まされる。4月1日、米軍が沖縄本島に上陸、後に「鉄の暴風」と呼ばれる陸海空からの猛爆撃が始まった。炊事兵たちも臨戦態勢となり緊張感に包まれる。米軍は徐々に運玉森にも迫ってきた。そして5月―

◆　◆　かいせつ　◆　◆

世界中に民族的差別は溢れています。日本にしてもそれは同様です。私たちはこれまでにも沖縄を舞台にした作品を何本か創ってきました。それぞれの作品のなかに込めた思いは、内地の人間より虐げられ、差別されてきた沖縄の視点から日本を見つめ直すというものでした。

そして今回、沖縄の激戦跡に建つ「南北の塔」に材を得て舞台化する本作においては、日本最南端の沖縄県人と最北端のアイヌ民族を描き出します。このことによって、あらためて日本人というものの本質が見えてくるのではないかと思っています。

18	くにこ	劇団文学座

文学座の女優たちが明るい笑いと元気をがんばる皆様にお届けする
「女優シリーズ」第一弾!!
おかしくてやがて哀しい、物語の母の物語。

作　◆中島　淳彦
演出◆鵜山　仁

出演◆
・角野　卓造
・塩田　朋子
・山本　郁子
・栗田　桃子
他

◆ ◆ あらすじ ◆ ◆

昭和4年11月28日、東京の世田谷区若林町に一人の女の子が生まれました。

その子の名前は“くにこ”やがて、その女の子は物語の母になるのでした。

この物語は、一人の女の子が、物語の母になるまでを描くものです。

彼女が見つめていたものが、彼女に染み込み、いつの間にか彼女自身となり、言葉や物語としてあふれ出していく……。

◆ ◆ かいせつ ◆ ◆

平成の人情喜劇作家･中島淳彦が、『ゆれる車の音』に続いて文学座に書き下ろし、2010年に、鵜山仁/演出により初演し好評を博した作品です。

ホームドラマの名作を数多く残した、脚本家で作家の向田邦子の前半生をモチーフにして、物書きとして歩きだすまでの評伝的要素と「寺内貫太郎一家」など多くの向田作品を偲ばせるオマージュ的な要素を含んだ作品として生まれました。

ヒロインの邦子を栗田桃子が伸び伸びと演じ、戦争を挟んだ昭和の「家族」の物語が豊富なエピソードを次々と繰り出しながら軽快に展開されていきます。家族の絆の有様があらためて問い直されている今こそ、是非多くの皆様に観ていただきたい舞台です。

19 ロッカビーの女たち

～The Women of Lockerbie～

劇団朋友

この作品は『ロッカビー』で起きた事だけに留まらず、
あなたにとって　本当の癒しとは･･･？　人生を生き抜くとは･･･？
今再び問いかけてきます。

作　◆デボラ
　　・ブレヴォート
訳　◆渡辺　ひとみ
演出◆西川　信廣

出演◆
・寺田　路恵（予）
・樋田　慶子（予）
・益海　愛子
・菅原　チネ子
・西海　真理
他　劇団朋友

◆ ◆ あらすじ ◆ ◆

1988年に起きたパン･アメリカン航空機爆破･墜落事件により息子を亡くしたマデリーンは、事故後7年経っても息子の死を受け入れられずにいた。

7年目の追悼式にアメリカから墜落のあったスコットランド･ロッカビー村を訪れるが、マデリーンは息子の遺骨･遺品を探すため丘をさ迷い歩くばかりであった。そんな時彼女は、犠牲者の衣類の切れ端を洗濯し、遺族に送り返すというプロジェクト(ランドリー･プロジェクト)に関わっているロッカビーの女性達に出会う。

マデリーンやロッカビーの人々は果たして傷ついた心を癒すことができるのであろうか？　そして、様々な社会問題が取巻く現代に生きる人々に、何を訴えかけ、問いかけてくるのだろうか……。

◆ ◆ かいせつ ◆ ◆

『パンナム機爆破事件(通称ロッカビー事件)』1988年12月21日にイギリス･スコットランド地方ロッカビー村上空を飛行中、爆発を起こして墜落。乗員16名、乗客243名と巻き添えになった住民11名の計270名が死亡した。リビア政府の関与の下で実行されたテロ事件として国際問題になった事件。

『ランドリー･プロジェクト』墜落事故後、ロッカビーの女たちは現場で見つかった犠牲者の衣類の切れ端11,000点を洗濯し、洗った衣類の切れ端を世界中の遺族に送った。

20	海霧	劇団民藝

湿った大気の、かすかな木洩れ陽で、奇跡のように咲いた花なのだ―。明治、大正、昭和へと激動の時代を、北の大地でひたむきに生きた女性三代の物語。

作　◆原田　康子
脚色◆小池　倫代
演出◆丹野　郁弓

出演◆
・樫山　文枝
・桜井　明美
・中地　美佐子
・伊藤　孝雄
他

◆　◆　あらすじ　◆　◆

新天地への夢を求めて佐賀から釧路へと渡り、店を開いた平出幸吉と妻さよ。やがて隆盛を極めた平出商店の悩みの種は、跡取りである男まさりの長女リツと婿との不仲でした。孫の千鶴が誕生したことで順風満帆と思えたのも束の間、平出家には次々に荒波が押し寄せます。過酷な風土のなかで明治･大正･昭和を生き、一族を守り続けたさよの胸には、いつもあの北の海の「深い霧」があったのでした･･･。

◆　◆　かいせつ　◆　◆

明治の初め、「蝦夷」と呼ばれた広大な未開の地北海道で人生を切り拓いていった男たちと、深い霧のなかで凛々しく彼らを支え続けた、女三代の物語。原作は原田康子さんが自身の血族をモデルに綿密な調査を行って書き上げた吉川英治文学賞受賞の長編大河小説です。同じく北海道在住の劇作家小池倫代さんの脚本により待望の舞台化が実現しました。

壮大なスケールで展開する人間ドラマは、現代を生きる私たちに圧倒的な感動を呼び起こします。

樫山文枝はさよ役で紀伊國屋演劇賞個人賞を受賞しました。

2014年４月以降企画討議作品

創造団体の皆さんから長野県演鑑連に向け、「2013年4月以降の例会候補作品」として提出して頂いたうち、今年度（2013年度）の２０候補にはならなかった作品群です。引き続き2年先3年先…の例会候補であり、県をあげて積極的に、情報収集・情報共有・ストック作品としてゆく対象でもあります。なお、インターネット上の「長野県演鑑連ホームページ（http://www.o-iri.com/1/nagano/）」にアクセスして頂くと、各作品の詳細（写真・あらすじなど）がご覧頂けます。

創造団体名	作品タイトル	作(or原作)/演出	出演
劇団１９８０	落語芝居　芝浜	/大谷美智浩	柴田義之/上野裕子
劇団ＮＬＴ	OH!マイママ	ジーンジャック・ブリケール/釜紹人	川端慎二/木村有里
劇団えるむ	みすゞ凛々	矢崎節夫/ふじたあさや	金井節/吉川秀樹
劇団えるむ	銀のしずく降る夜	知里幸恵/ふじたあさや	板倉加代子/青坂章子
演劇集団円	カシオペアの丘で	重松清/土屋理敬	野村昇史/小松エミ
岡部企画	太陽の塔	岡部耕大/岡部耕大	五島三四郎/草薙仁
関西芸術座	チンチン電車と女学生―1945年8月6日・ヒロシマ―	堀川惠子/門田裕	金谷克海/森本竜一
京楽座	コンサートドラマ　ピアノのはなし	上野歌子/栗谷川洋	中西和久/佐々木洋子（p）
	中西和久のエノケン	ジェームス三木/ジェームス三木	中西和久/海浩気（予）
	山椒大夫考	ふじたあさや/ふじたあさや	中西和久
	をぐり考	ふじたあさや/ふじたあさや	中西和久
劇団コーロ	ハンナのかばん	カレン・レビン/菊池准	成田扶美子/久保貴史
	ハナシがちがう！	田中啓文/藤井ごう	久保貴史/恒川勝也
こまつ座	兄おとうと	井上ひさし/鵜山仁	辻萬長（予）/剣幸（予）
こんにゃく座	あちゃらかオペラ夏の夜の夢～嗚呼！大正浪漫編～	W・シェイクスピア/山元清多	川鍋節雄/大石哲史
シルバーライニング	セメタリー倶楽部　TheCemeteryClub	アイヴァン・メンチェル/竹邑類	丘みつ子/新藤恵美
	映画に出たい！	ニール・サイモン/富田稔英	勝野洋/夏樹陽子
	ミュージカル　コレット・コラージュ	トム・ジョーンズ/勝田安彦	旺なつき/立川三貴
劇団新人会	素劇　ヘレン・ケラーとサリヴァン先生	ウィリアム・ギブソン/関矢幸雄	萩原萌/永野和宏
	紙屋悦子の青春	松田正隆/前田昌明	都筑直美/萩原萌
劇団昴	隣で浮気	A・エイクボーン/ニコラス・パーター	岡田吉弘/宮本充
青年劇場	博士の愛した数式	小川洋子/福山啓子	（未定）
劇団青年座	ブンナよ、木からおりてこい	水上勉/磯村純	
劇団前進座	或る「小倉日記」伝	松本清張/鈴木龍男	柳生啓介予/北澤知奈美予
	三人吉三巴白浪	河竹黙阿弥	藤川矢之輔/河原崎國太郎
	木槿の咲く庭	R・スー・パーク/十島英明	武井茂/浜名実貴

劇団だるま座	怪盗先生、教壇に立つ	村上秀樹/村上秀樹	劇団だるま座劇団員
	祈り～テヴィエー家とその仲間達～	G･ゴーリン/菊地一浩	剣持直明/塚本一郎
テアトル･エコー	風と共に来たる	ロン･ハッチンソン/酒井洋子	安原義人/後藤敦
トム・プロジェクト	夏きたりなば	ふたくちつよし/ふたくちつよし	仁科亜季子/小林美江
	新妻聖子ひとり芝居　青空…！	東憲司/東憲司	新妻聖子
	ダモイ～収容所（ラーゲリ）から来た遺書～	辺見じゅん/ふたくちつよし	下條アトム/大出勉
	かもめ来るころ～松下竜一と洋子～	ふたくちつよし/ふたくちつよし	高橋長英/斉藤とも子
	東おんなに京おんな	ひょうた/田村孝裕	岡本麗/冨樫真
	百枚めの写真～一銭五厘たちの横町～	ふたくちつよし/ふたくちつよし	大西多摩恵/鳥山昌克
	賭けること	中西良太/中嶋しゅう	河西健司/阿知波悟美
劇団銅鑼	カタクリの花の咲く頃	栗木英章/山田昭一	菊地佐玖子/千田隼生
	センポ･スギハァラ～再び夏へ～	平石耕一/平石耕一	横手寿男/館野元彦
	流星ワゴン	重松清/磯村純	館野元彦/馬渕真希
劇団仲間	森は生きている	S･マルシャーク/高田潔（予）	関口篤（予）/古川伴陸（予）
	ふたりのイーダ	松谷みよ子/鈴木龍男	関口篤（予）/古川伴陸（予）
俳優座劇場プロデュース	家族の写真	N･プトゥーシキナ/鵜山仁	中村たつ/日下由美
ピュアーマリー	ミュージカル　HONK!（ホンク！）	A･ドリュー/鈴木孝宏	岡まゆみ（予）/木村昴（予）
	マウストラップ～ねずみとり～	A･クリスティー/大和田伸也	内海光司/倉石功
	名探偵ポワロ　ブラックコーヒー	A･クリスティー/佐竹修	三波豊和/内海光司
人形劇団プーク	うかうか三十、ちょろちょろ四十	井上ひさし/井上幸子	岡本和彦/安尾芳明
イッツフォーリーズ	ミュージカル　見上げてごらん夜の星を	永六輔/北澤秀人	大塚庸介/井上一馬
劇団文化座	千羽鶴	コーリン･トーマス/磯村純	小林悠記子/姫地実加
劇団朋友	真砂女	瀬戸口郁/西川信廣	藤真利子予/本山可久子予
	百合の季節	桃谷方子/黒岩亮	柳川慶子（予）/藤夏子（予）
山彦の会	音楽劇　母さん	堀江安夫/横山由和	伊東恵里/鈴木慎平
劇団わらび座	ミュージカル　おもいでぽろぽろ	スタジオジブリ/栗山民也	わらび座劇団員

※作／演出欄の、（原）＝原作、（脚）＝脚本もしくは脚色。出演者欄の、（予）=予定、（イ）＝イメージ、(W)=ダブル･キャスト、(*1)＝過去公演時のキャストであり、現段階では予定orイメージ。表記がない場合でも、予定もしくはイメージの場合があります。
●文字サイズや枠寸法にバラつきがありますが、文字数等、スペースの都合です。

企画づくりの基本的な考え方

①〈観てよかった〉〈例会にしてよかった〉といえる企画づくり

- 華やかでなくても、現代を鋭くとらえている作品、人間の本質に触れる作品、真実を描き出している作品は、私たちに深い感動を与えてくれます。
- 幹事会では、知名度や話題性ばかりにとらわれず、〈観てよかった〉〈例会にしてよかった〉といえる例会をつくっていくために、実際に舞台を観たり、資料を集めたり、日常的に舞台成果を確かめる努力をしています。

②《統一レパートリー》を基本にした企画づくり

- 長野県演鑑連の7団体が協力して同じ作品を例会にすることで、運営サークルの活動の中で生じた成果や問題点を検証し合い、互いに学び、励ましあって発展していくことを目指します。

今年も各劇団･創造団体のご協力で、多彩で魅力的な例会候補作品が出揃いました。候補作品の中には、名作、創作劇、ミュージカル、喜劇、悲劇、コメディ、推理劇などバラエティーに富んだ作品が上がっています。より魅力ある例会を実現するために、サークルで話し合い、サークルの要望を持ち寄りましょう。

私たちの会は、サークルの力なしでは運営できません。
《希望制》は〈やりたい例会を自分たちで選ぶ〉という、
楽しく、主体性を生かした例会運営方法です。

年に１回は運営サークルに参加して、皆で例会を成功させましょう！

- 運営サークルは、《みんなで会費を持ち寄り、みんなで運営する》という、市民劇場の基本にそった活動です。誰から強制されるものではない、誰のお手伝いでもない、会員が主人公の自主的な活動です。ですから、運営サークルは《希望制》です。
- 1年に1例会、自分たちが選んで担当する例会を、最高の観劇条件を作り出して迎えることが、運営サークルの最大の課題です。
- まずは、運営に参加したい 例会の希望を提出することからスタートです。

◎サークルで話し合って、希望の例会を選んでください。
◎この機会に、ぜひサークルの集まりを持ちましょう。

発　行◆長野県演劇鑑賞団体連絡会議
事務局◆上田市民劇場
編　集◆いいだ市民劇場